2020年度全国保育士養成協議会　東北ブロック春季総会（4月25日）

研究委員会報告

2019年度共同研究テーマ

「養成校と実習施設との連携に向けた実習内容に関する調査研究（2）～実習施設の実態と意識～」

2019年度全国保育士養成協議会
東北ブロック研究委員会

調査の目的と方法

　保育実習実施基準及び教科目の教授内容の改正、保育実習指導のミニマムスタンダードVer.2が改訂され、“実習内容”については養成校と実習施設とが協議して策定することが求められた。しかし、指導実習についての詳細な内容は未だ明記されていないため、各養成校や実習施設にその内容は委ねられている。そこで、本研究では保育実習Ⅰ・Ⅱの実習施設(以下、施設とする)で行われている具体的な内容や、意識と実態について調査し、全体の傾向と特徴を抽出することを目的とした。

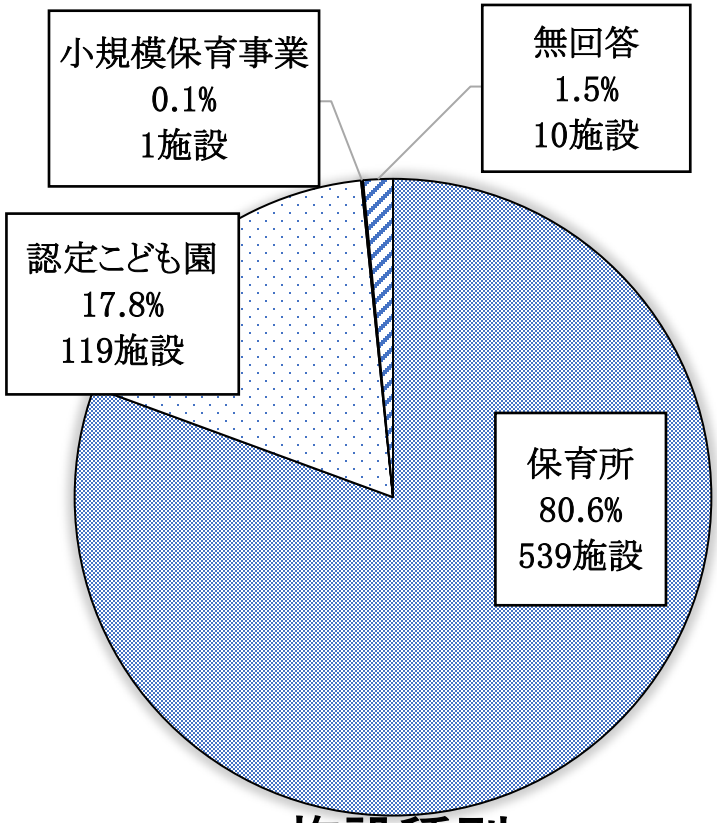
調査時期と対象者

- 2019年7月～10月
- 郵送法とWEBによるアンケート調査を実施
- 同協議会東北ブロックに加盟している指定保育士養成施設（以下、養成校）が、2017・2018年度に保育実習Ⅰ・Ⅱを実施した1364施設を対象とし、669施設から回答を得た（回答率 約49%）。アンケート調査の回答は施設の担当者が行い、期限内に回収された全ての調査票を有効回答として分析の対象とした。

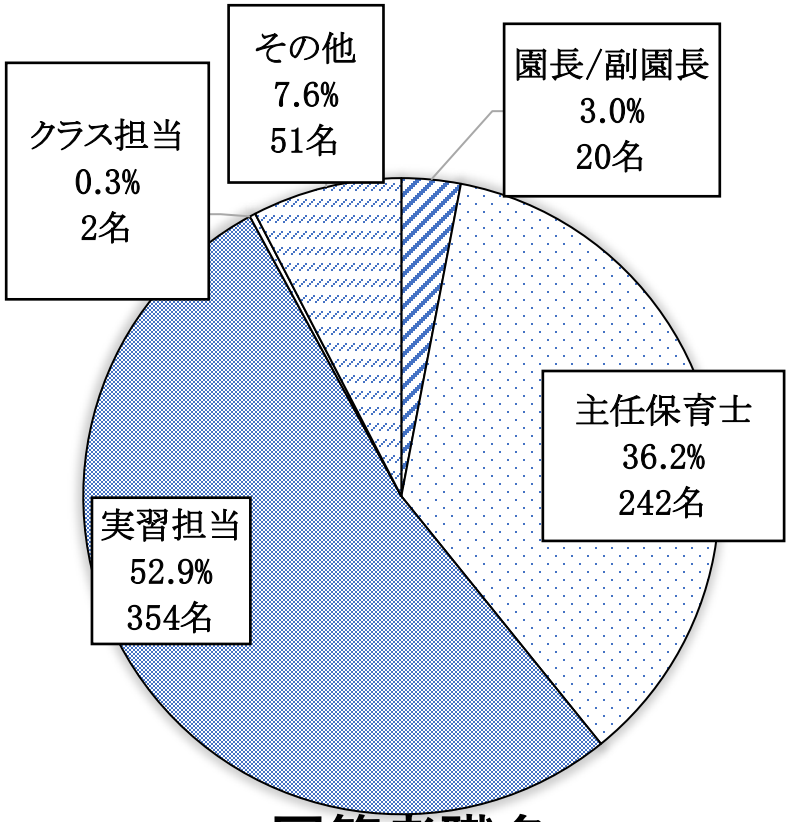
調査項目と分析方法

- 全国保育士養成協議会東北ブロック研究委員会にて質問項目を作成。
- ①フェイスシート・属性、②園内連携、③訪問指導、④指導案および日誌、⑤実習評価、⑥保育実習Ⅰ(保育所)および保育実習Ⅱ（保育所）の部分・責任実習について、選択記述及び自由記述によって回答を得た。
- 各項目の内容ごとに、選択記述回答は頻度・割合を算出し集計結果を概観した。自由記述で回答された項目についてはKHCorderを用いての検討や文意ごとに切片化し拡散、段階的に収束を図った。

1．回答者の属性



施設種別



回答者職名

通算保育士経験年数の最も高い値：20～29年　274名（41.0％）

通算保育実習指導歴の最も高い値：10年以上　221名（33.0％）

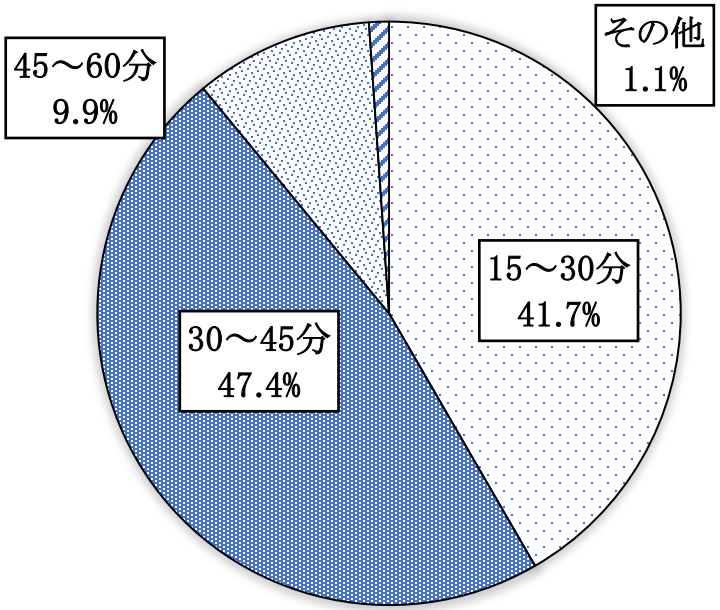
２.園内連携と訪問指導について

（１）園内連携

職員間の実習指導に関する所・園内マニュアル

ある　180（27.2％）　　ない　481（72.8％）

（２）訪問指導



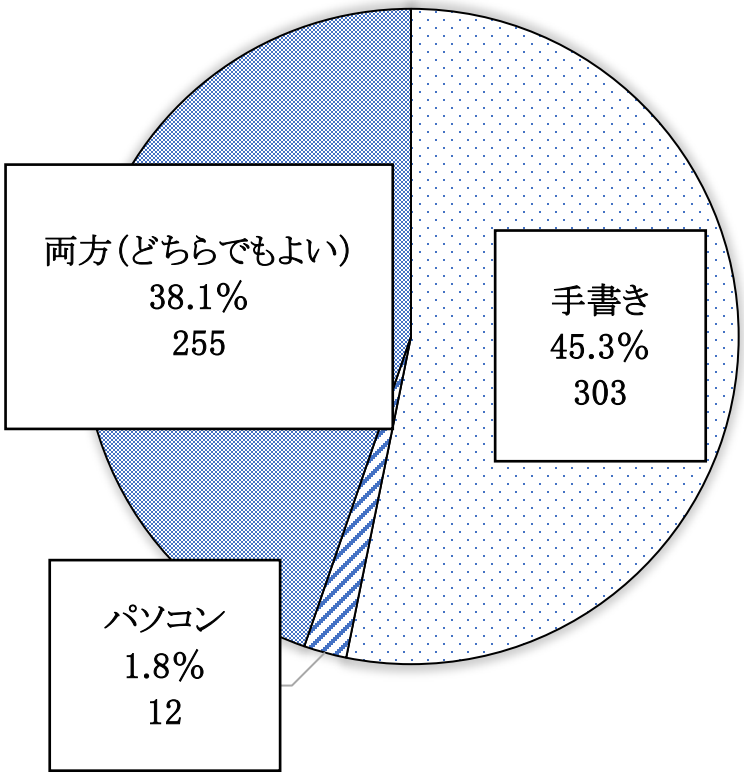
適切な滞在時間

〈行われていること〉

- 学生との面談時間確保
  591（88.3％）
- 実習計画の説明
  310（46.3%）
- 所・園側の要望の伝達
  253（37.8％）
- 日誌の提示
  148（22.1％）

３.指導案および日誌

（１）指導案の作成方法



〈手書き〉

- 指導の痕跡が残る
- 考えが記憶に残りやすく、
- より深い学びにつながる

〈パソコン〉

- 効率の良さ、時間短縮

〈手書き・パソコンのデメリット〉

- 手書きは修正箇所が多いと、書き直す際に時間と手間がかかる
- PCはコピーが可能であるため本人が書いたか不明

（2）実習時間内に日誌や指導案を書くこと

実習時間内に日誌や指導案を書くこと(n=669)		
	日誌	指導案
あってもよい	450（67.3%）	423（63.2%）
どちらともいえない	129（19.3%）	196（29.3%）
望ましくない	29（4.3%）	40（6.0%）
無回答	61（9.1%）	10（1.5%）

〈時間内に書く時間があってもよいと考える理由〉

- 指導者と相談して作成できる
- その時々の疑問をその場で解決できる
- 働き方改革の中で保育士も実施している

〈時間内に書くことが望ましくないと考える理由〉

- 時間内に書くことを求めると負担になるのではないか
- メモ程度で持ち帰り、じっくりと振り返りながら書く方が良いのではないか

4. 実習生に評価票を開示する望ましさ

評価票を実習生に開示することは望ましいか(n=652)

望ましさ	施設数（%）
望ましい	309（47.4）
どちらともいえない	302（46.3）
望ましくない	41　（6.3）

〈望ましいと回答した理由-代表的な記述-〉

- 客観的評価と自己評価を照らし合わせることで不足している技能を把握できる
- 自分の力を正しく理解することが、次のステップにつながる
- 実習生も一生懸命に取り組んでおり、その結果・評価なので、確認をし、今後に生かすことは大切であり、プラスになると思う

等、ﾎﾟｼﾞﾃｨﾌﾞな意見が多かったが、その場合養成校だけに伝えたい事を別に伝える方法があるとよいとの意見もみられた。

〈どちらともいえないと回答した理由-代表的な記述-〉

- 評価や講評について、プラス志向に学生が捉えてくれるのであれば良いが、アドバイスを悲観的に捉えないか心配な部分もあります
- 自分がどう評価されたかを知るべきだが、評価内容を見て、実習した園のイメージが悪くなったりすることもあるのかとも思う

等、評価が悪かった時の学生のダメージを心配する意見や、施設の評価が悪くなることへの心配、また開示する場合事前に知らせてほしい等、消極的な意見が多かった。

〈望ましくないと回答した理由-代表的な記述-〉

- 本音を書けなくなる。良い点ばかりでなく、時には厳しいことも書くので、学生のやる気がなくなると困る。書く方の配慮が必要となり、評価しづらい
- マイナス面の評価が書かれていた場合、傷つくかもしれないし、それを見て「頑張ろう」と思えるタイプの学生ばかりではないと思う。実習日誌のまとめや総評のページに、良かった点と今後の課題を記入している

等、評価票は養成校教員に宛てており学生には同様の内容を日誌に記載している、実習生へは最終日に反省会を設けて伝えている、学生のダメージを考えて本音を書けず評価しにくいこと、養成校側へ伝えたいことが伝えられなくなる、開示ではなく総合所見を今後の指導に活かすことでよい等の意見が挙げられた。

5－1 指導内容としてプログラムしていることや実習中の実習内容

（○は、「園として実施」の多い順5項目）

実習内容		園数	%
実習計画の提示	1依頼があれば実施	113	17.4
(n=651)	2園として実施	472	72.5
	3特に行っていない	66	10.1
行事計画の提示	1依頼があれば実施	190	29.1
(n=652)	2園として実施	325	49.9
	3特に行っていない	137	21.0
多様な勤務体制	1依頼があれば実施	161	24.6
(n=655)	2園として実施	372	56.8
	3特に行っていない	122	18.7
毎日の反省会	1依頼があれば実施	112	17.0
(n=649)	2園として実施	343	52.9
	3特に行っていない	194	29.9
中間反省会	1依頼があれば実施	149	23.2
(n=641)	2園として実施	145	22.6
	3特に行っていない	347	54.1
最終反省会	1依頼があれば実施	18	2.7
(n=657)	2園として実施	616	93.8
	3特に行っていない	23	3.5
子育て支援への理解	1依頼があれば実施	225	35.1
(n=640)	2園として実施	186	29.1
	3特に行っていない	229	35.8
地域社会との連携の理解	1依頼があれば実施	210	32.9
(n=638)	2園として実施	162	25.4
	3特に行っていない	266	41.7
配属クラスの工夫	1依頼があれば実施	112	17.5
(n=640)	2園として実施	504	78.8
	3特に行っていない	24	3.7
保育計画や記録の開示	1依頼があれば実施	361	55.5
(n=650)	2園として実施	186	28.6
	3特に行っていない	103	15.9

※無回答を除いた数値

5－2指導内容としてプログラムしていることや実習中の実習内容

○は、「依頼があれば実施」の多い順5項目）

実習内容		園数	%
実習計画の提示	1依頼があれば実施	113	17.4
(n=651)	2園として実施	472	72.5
	3特に行っていない	66	10.1
行事計画の提示	1依頼があれば実施	190	29.1
(n=652)	2園として実施	325	49.9
	3特に行っていない	137	21.0
多様な勤務体制	1依頼があれば実施	161	24.6
(n=655)	2園として実施	372	56.8
	3特に行っていない	122	18.7
毎日の反省会	1依頼があれば実施	112	17.0
(n=649)	2園として実施	343	52.9
	3特に行っていない	194	29.9
中間反省会	1依頼があれば実施	149	23.2
(n=641)	2園として実施	145	22.6
	3特に行っていない	347	54.1
最終反省会	1依頼があれば実施	18	2.7
(n=657)	2園として実施	616	93.8
	3特に行っていない	23	3.5
子育て支援への理解	1依頼があれば実施	225	35.1
(n=640)	2園として実施	186	29.1
	3特に行っていない	229	35.8
地域社会との連携の理解	1依頼があれば実施	210	32.9
(n=638)	2園として実施	162	25.4
	3特に行っていない	266	41.7
配属クラスの工夫	1依頼があれば実施	112	17.5
(n=640)	2園として実施	504	78.8
	3特に行っていない	24	3.7
保育計画や記録の開示	1依頼があれば実施	361	55.5
(n=650)	2園として実施	186	28.6
	3特に行っていない	103	15.9

※無回答を除いた数値

6-1.「保育実習Ⅰ」で学ぶ内容について特に重要と思われる項目

1位	2位	3位	4位	5位
① 保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり（279件）	① 子どもの発達過程の理解（174件）	① 子どもへの援助やかかわり（136件）	① 子どもの生活や遊びと保育環境（115件）	① 保育士の業務内容（112件）
② 子どもの発達過程の理解（116件）	②子どもの観察とその記録による理解（113件）	② 保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり（94件）	② 子どもの発達過程に応じた保育内容（84件）	② 記録に基づく省察・自己評価（92件）
③ 子どもの観察とその記録による理解（71件）	③子どもへの援助やかかわり（110件）	③子どもの発達過程に応じた保育内容（84件）	③記録に基づく省察・自己評価（76件）	③職員間の役割分担や連携・協働（78件）

6-2.「保育実習Ⅱ」で学ぶ内容について特に重要と思われる項目

1位	2位	3位	4位	5位
① 養護と教育が一体となって行われる保育（138件）	① 保育士等の援助や関わり（166件）	① 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解（139件）	① 作成した指導計画に基づく保育の実践と評価（147件）	① 自己の課題の明確化（266件）
② 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解（112件）	② 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解（121件）	② 作成した指導計画に基づく保育の実践と評価（100件）	② 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解（82件）	② 多様な保育の展開と保育士の業務（99件）
③ 保育士等の援助や関わり（110件）	③ 子どもの心身の状態や活動の観察（92件）	③ 保育士等の援助や関わり（74件）	③　全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の課程の理解（81件）	③ 作成した指導計画に基づく保育の実践と評価（66件）

考察

実習内容を施設と養成校とが協議する際、次の点を具体的に検討しておく必要があることが示唆された。

①日誌・指導案作成にPCを用いることの養成校側の態度(とりわけ積極的意味の検討)

②実習時間内に日誌・指導案を作成することに対する養成校側の態度(働き方改革の視点での残業と持ち帰り量の検討)

③施設から提出された実習評価票を学生に開示する場合の事前伝達の配慮(評価前の伝達や学生・園への影響の考慮)

④実習プログラムに組まれている内容の確認と依頼したい内容がある場合の調整

等である。

部分・責任実習の実態と保育実習施設の意識

ー東北ブロックにおける調査結果からー

保育実習Ⅰ・Ⅱにおいて（指導案を要する）責任実習の必要性

	必要	必要ではない	無回答・その他
実習Ⅰ	288	363	18
実習Ⅱ	650	5	14

保育実習Ⅰ

必要な理由

・指導案の作成、子ども達の前に立つ難しさなど、やることによって気づけることがある。
・実習Ⅱに向けての課題が明確になる。

必要ない理由

・実習Ⅰは観察がメインだから。
・まず子どもとの信頼関係の構築が大切。
・初めて来た保育所で指導案を要する責任実習は難しい。

保育実習Ⅱ

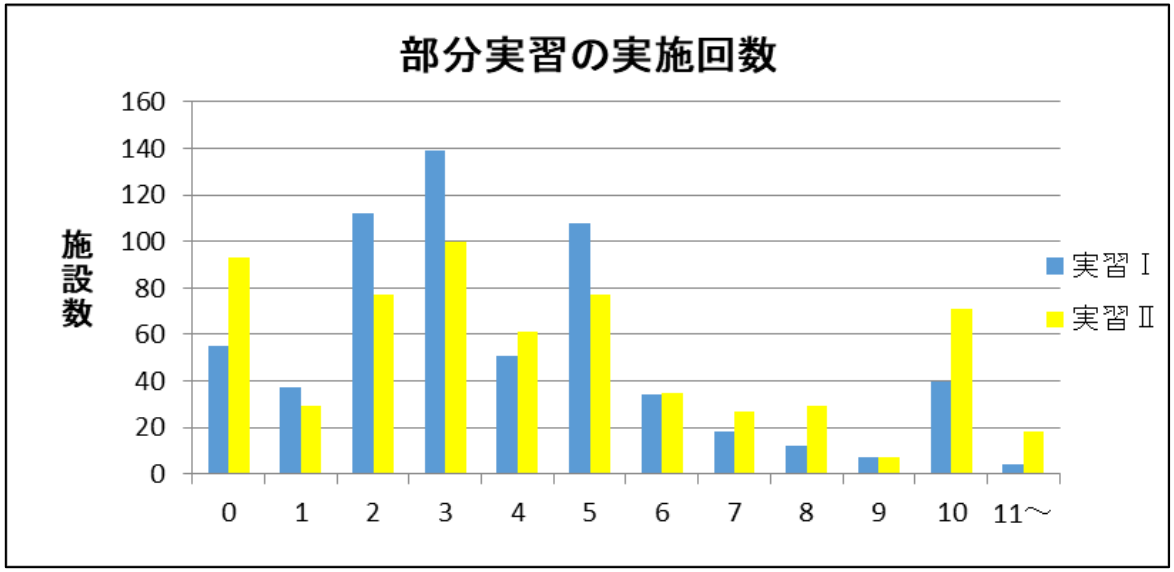
必要な理由

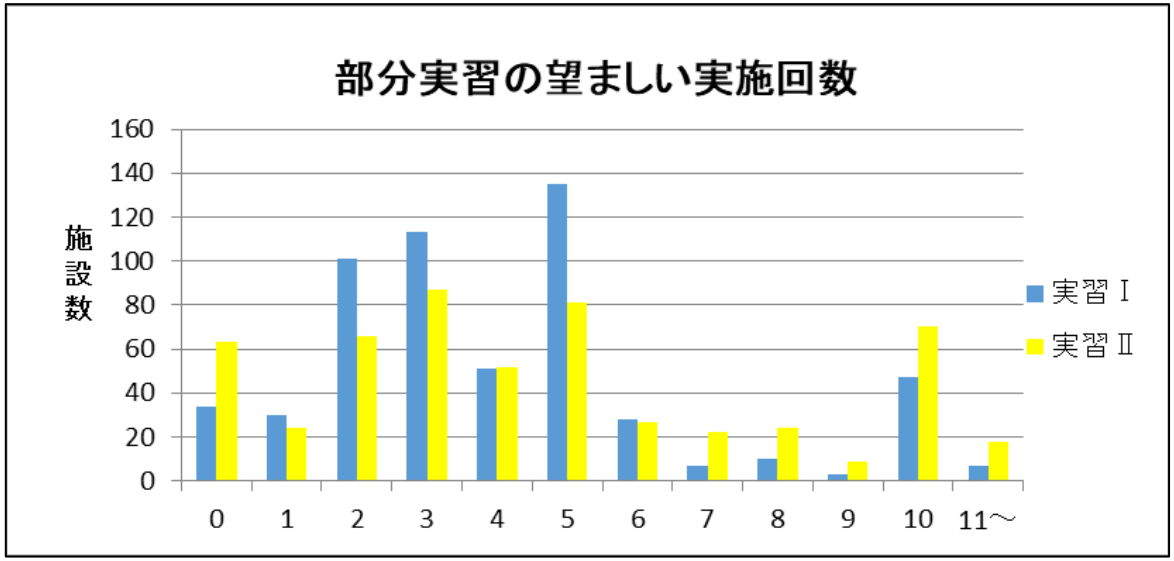
・実践的な実力をつけて欲しいから。
・来年は保育士として現場にでるから。

必要ない理由

・実習生、子ども、職員の状態がぎこちなくなったり、いつもと違う状況になるから。
・実習Ⅰと同様、まだ信頼関係が構築されていないから。また今は複数担任で始まるから。
・指導案など養成校で学ばれているのであれば特別必要ない。

部分実習の実施回数と望ましい回数※





※指導案を要しない部分実習

部分実習の実施回数と望ましい回数

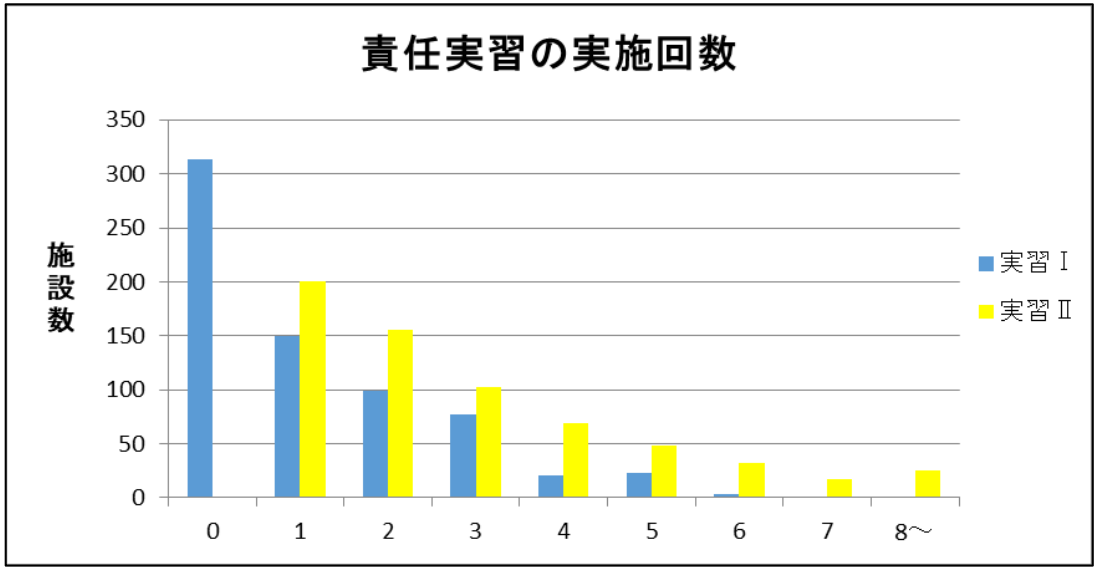
実施回数について

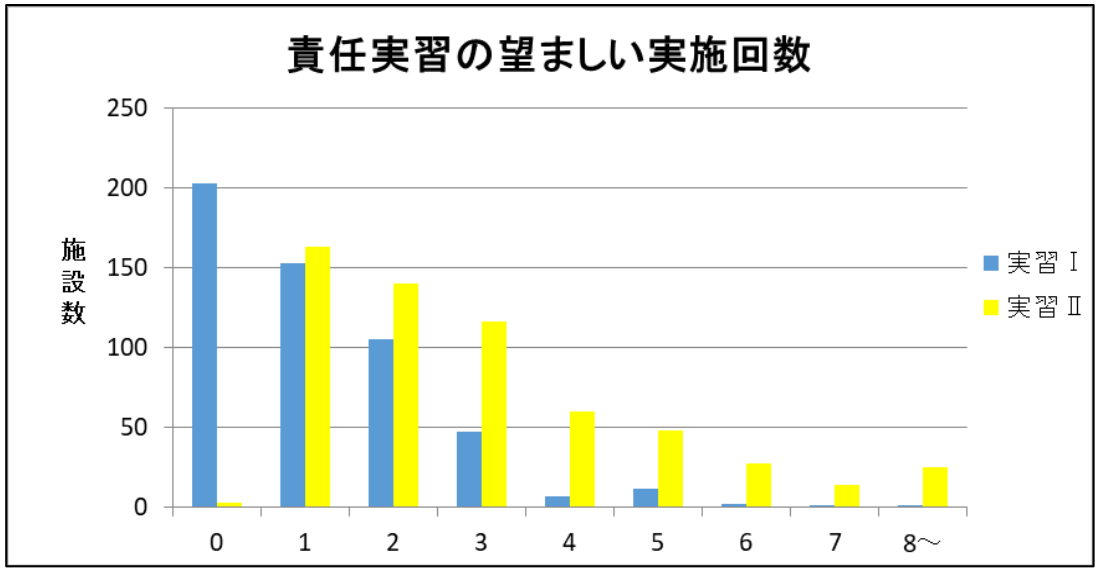
・指導案を要しない部分実習の実施回数において、実習Ⅰでは３回が最も多かったが、実習Ⅱでは比較的分散した結果となった。

望ましい回数について

・実習Ⅱでは実際の実施回数と望ましい回数に差はなかったが、実習Ⅰにおいては実際の実施回数よりも多くを望んでいる施設が多いことが確認できた。

責任実習の実施回数と望ましい回数※





※指導案を要する責任実習

責任実習の実施回数と望ましい回数

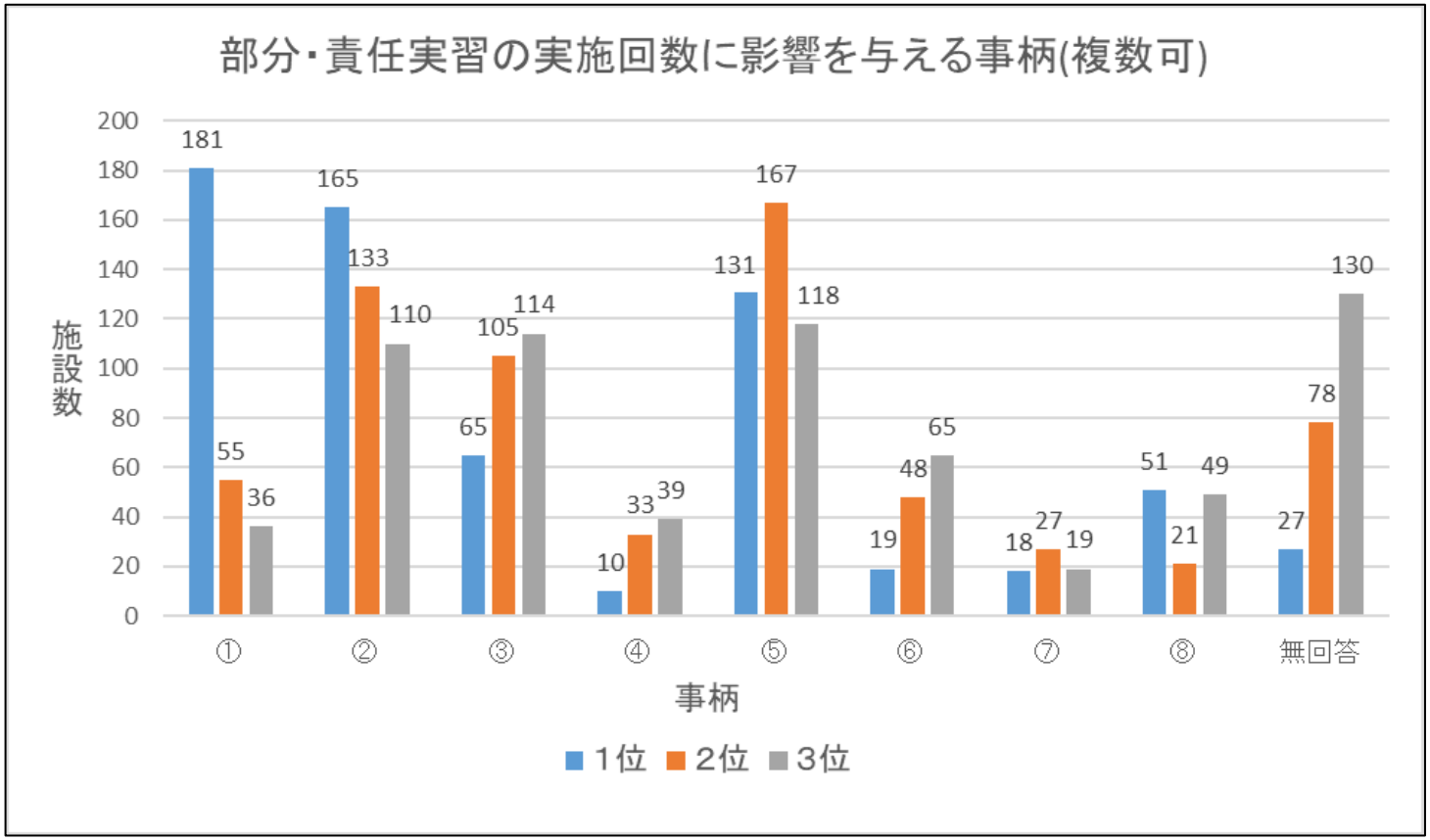
実施回数について

・指導案を要する責任の実施回数において、実習Ⅰでは０回、実習Ⅱでは１回が多かった。

望ましい回数について

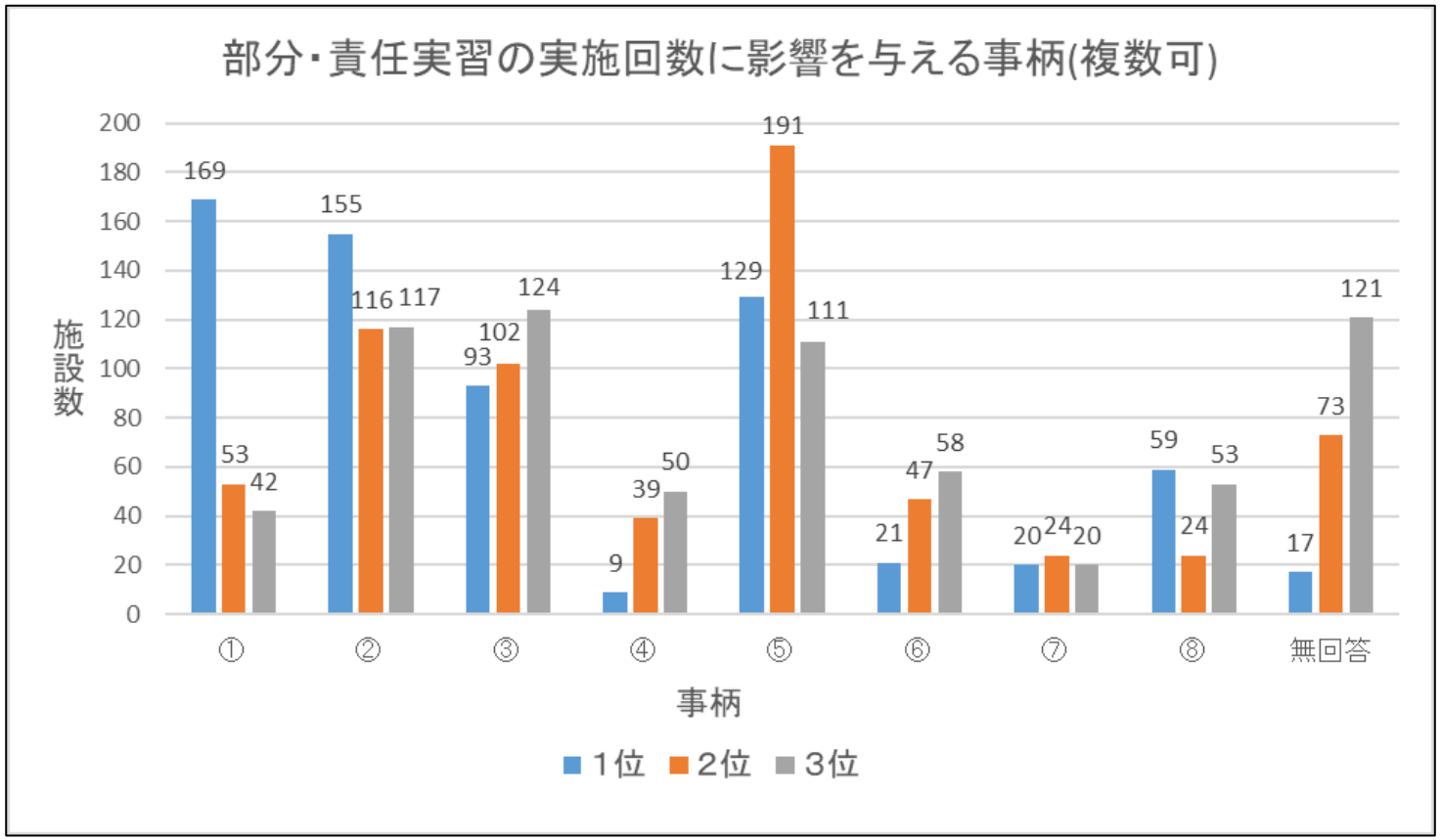
・実習Ⅱでは実際の実施回数と望ましい回数に差はなかったが、実習Ⅰでは「実施回数０回」としながらも「望ましい回数１回」と回答した施設が多かった。

保育実習Ⅰ



①養成校の依頼内容　②実習生の状況（体調・力量等）　③行事
④保育者の状況　⑤受け入れクラスの状況　⑥子どもへの影響
⑦手引き等の記載　⑧特になし（園で実習計画に基づき規定した回数で実施）

保育実習Ⅱ

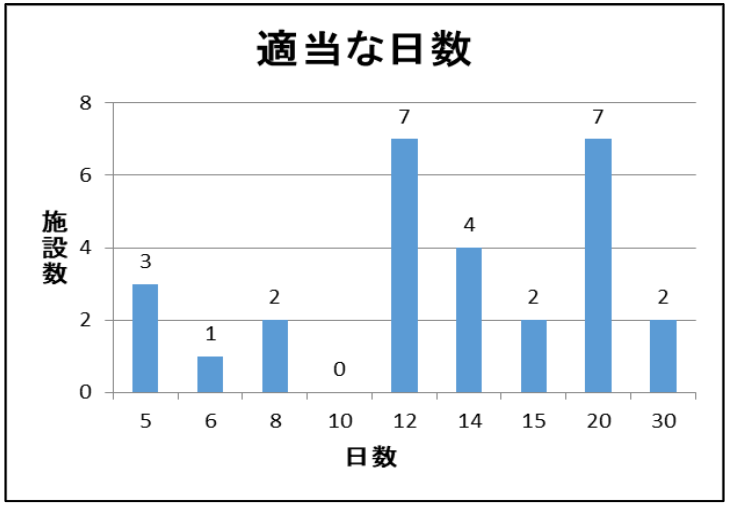


①養成校の依頼内容　②実習生の状況（体調・力量等）　③行事
④保育者の状況　⑤受け入れクラスの状況　⑥子どもへの影響
⑦手引き等の記載　⑧特になし（園で実習計画に基づき規定した回数で実施）

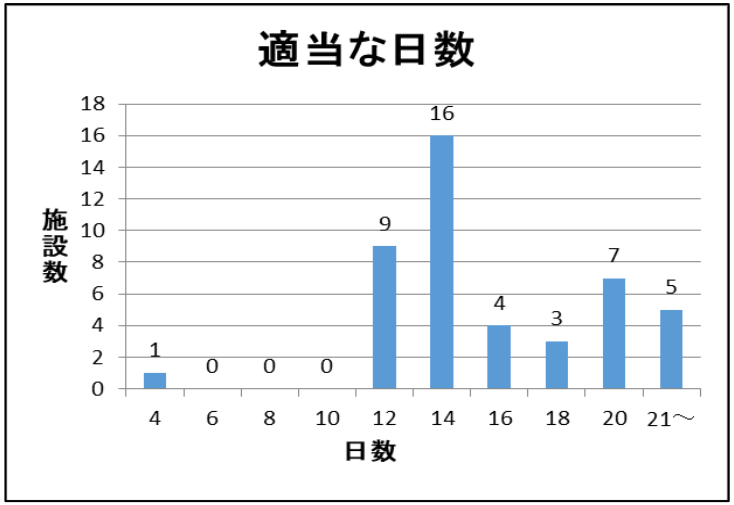
実習期間（10日間）の適当性

	適当	多い	少ない	その他
実習Ⅰ	625	6	27	11
実習Ⅱ	598	2	55	14

保育実習Ⅰ



保育実習Ⅱ



多い理由：実習生に負担が掛かるから。
少ない理由：10日間では何もわからないから。

まとめ

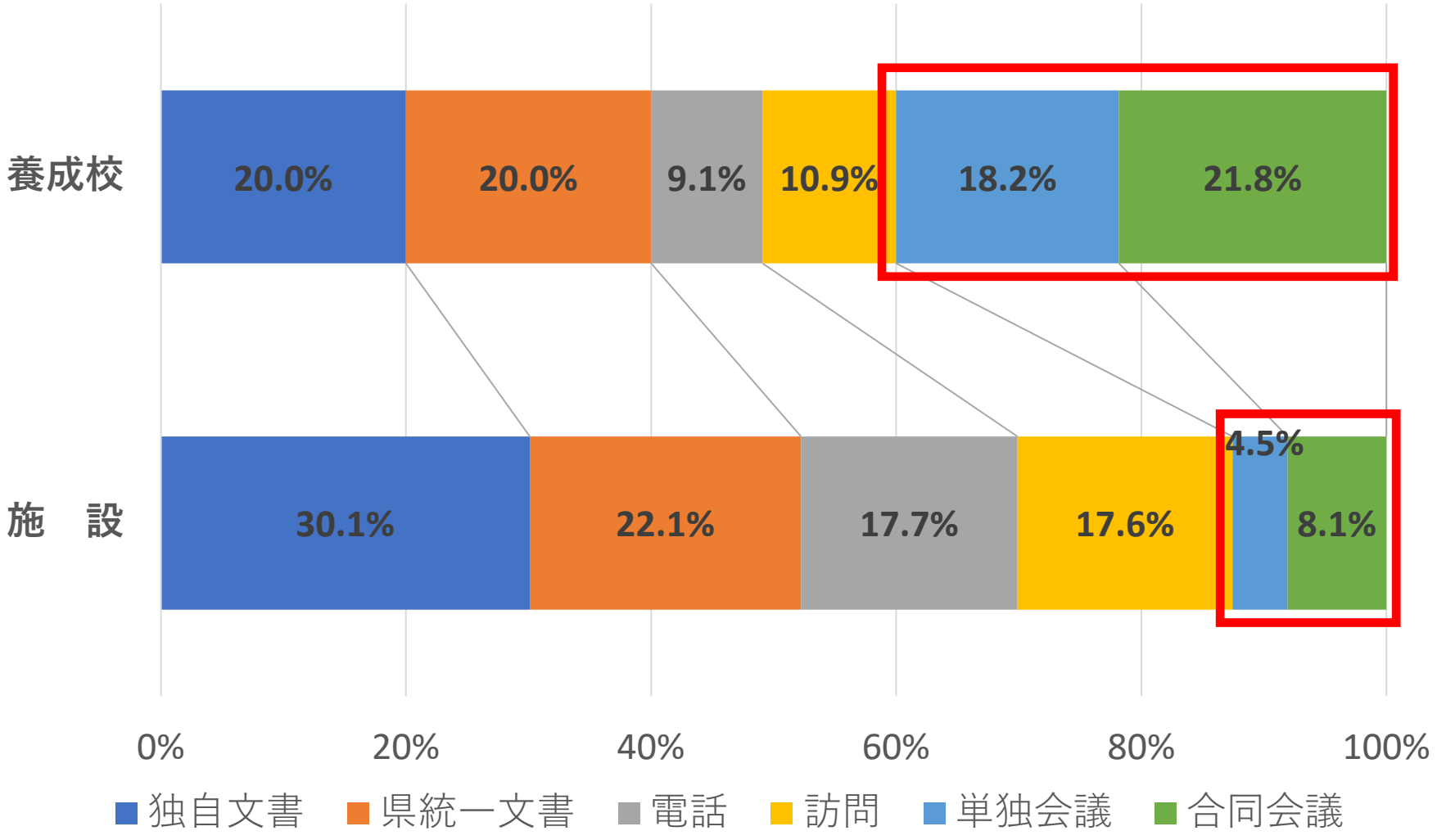
①施設は実習生に対して「学び優先」と「実習生への負担の考慮」が、常に天秤にかけられている。

②実習のあり方もそうだが、実際は実習生の能力・資質・姿勢など、パーソナリティによるところが大きい。

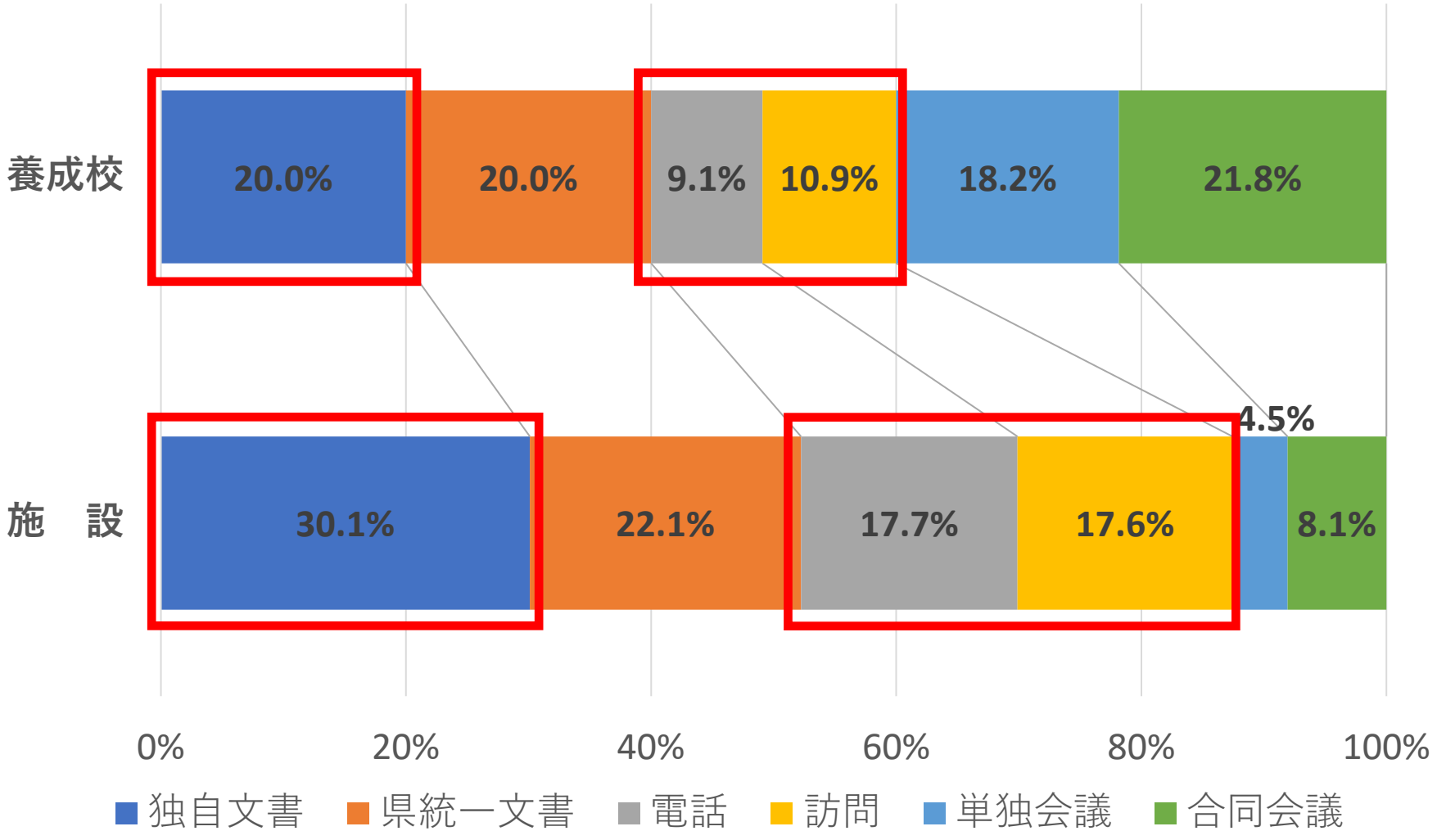
③施設の環境や状況、実習のタイミングや時期など「園の事情」が、実習実行に大きく影響している。

養成校−施設間の相違

望ましいと考える事前打ち合わせ方法



望ましいと考える事前打ち合わせ方法

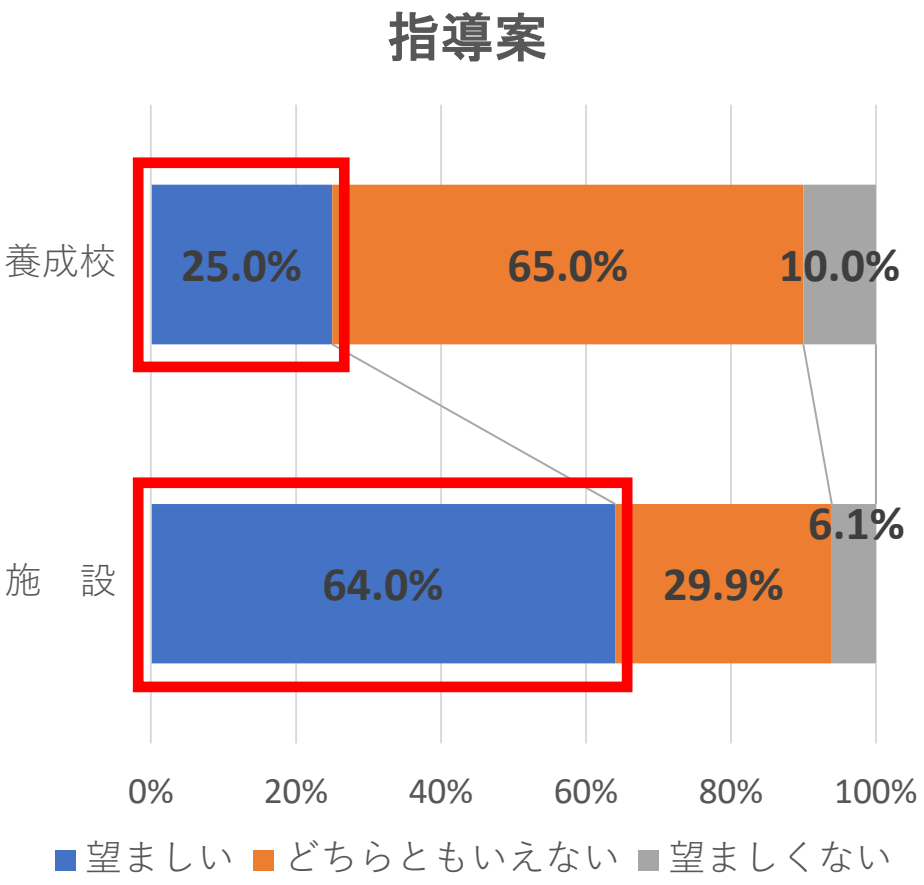


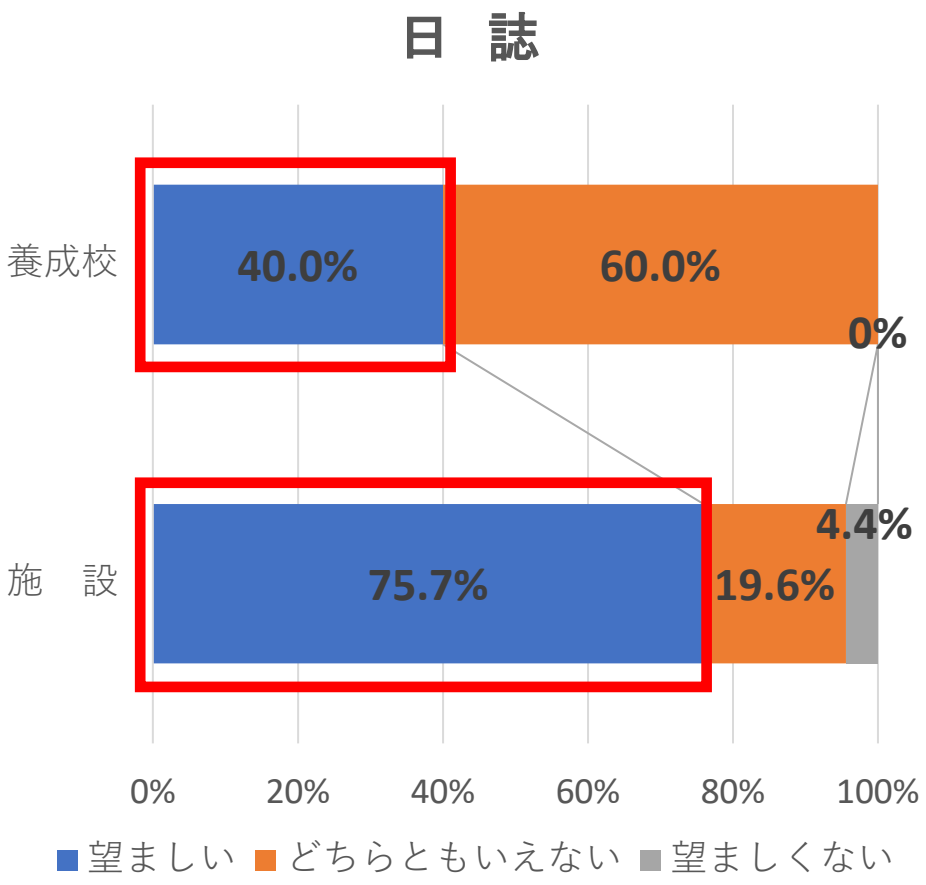
望ましいと考える事前打ち合わせ方法

- 養成校は施設より、「（単独・合同）会議」を望ましい打ち合わせ方法であると考えている。
- 施設は、「独自文書」、「電話」、「訪問」を「会議」よりも望ましい打ち合わせ方法であると考えている。なお、「独自文書」による打ち合わせは、すでに現行最も行われている方法である(石森ら,2019)。

石森真由子・日野さくら・佐藤匡仁・大関嘉成・西敏郎・細川梢・石井美和子（2019）．実習施設との連携に関する養成校の現状－全国保育士養成協議会東北ブロック調査結果から－　日本保育学会第72回発表論文集

実習時間内の指導案・日誌の記入





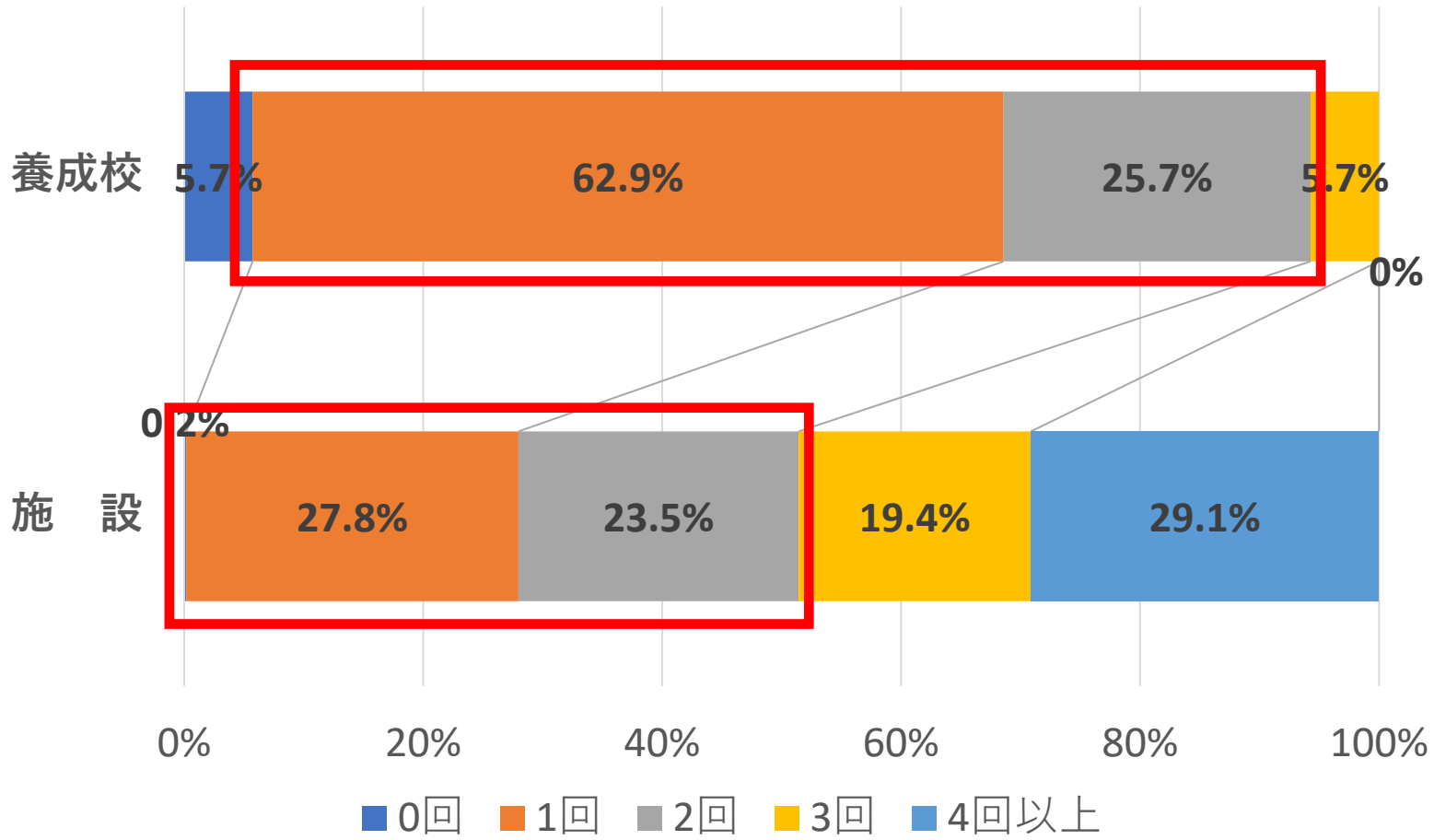
実習時間内の指導案・日誌の記入

・養成校の半数以上は、「施設の実情への配慮」等があり、実習時間内に指導案・日誌を記入する時間を設けることを「どちらともいえない」と考えている。
・施設の方が養成校より、「学生の負担軽減」等を図るために、時間内の記入を「望ましい」と考えている傾向がある。

※回答にあたっての主な理由
・養成校→「学生の負担軽減」、「施設の実情への配慮」
・施　設→「学生の負担軽減」、「（保育者に）相談できる」

望ましいと考える責任実習の回数

（保育実習Ⅱ）



※責任実習：指導案を要する部分・半日・全日実習

望ましいと考える責任実習の回数

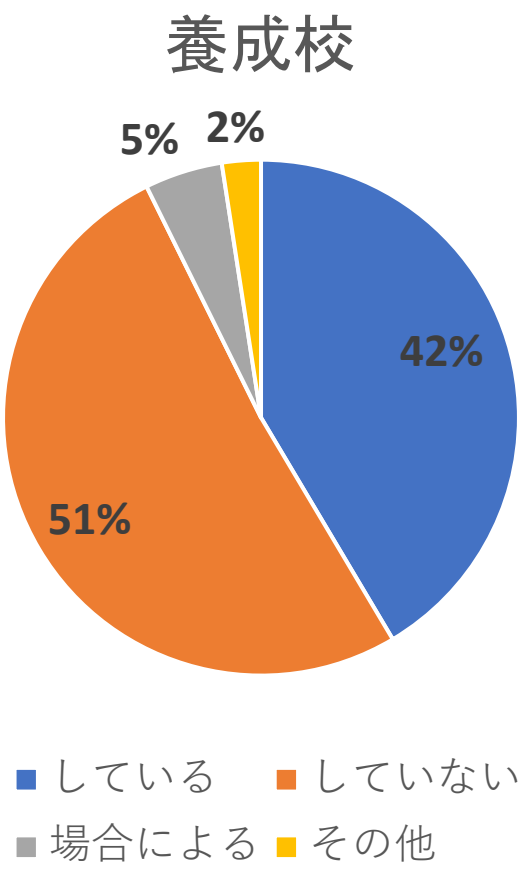
- 養成校の多数（約87%）は、保育実習Ⅱにおける指導案を要する責任実習は「1回」または「2回」が望ましいと考えている。特に半数以上（約63%）が、「1回」が望ましいと考えている。
- 施設の約半数は、「3回」以上が望ましいと考えている。施設間の方が、責任実習の回数設定に関する認識に大きな差があり、結果、養成校との差にも繋がっていることが推測される。

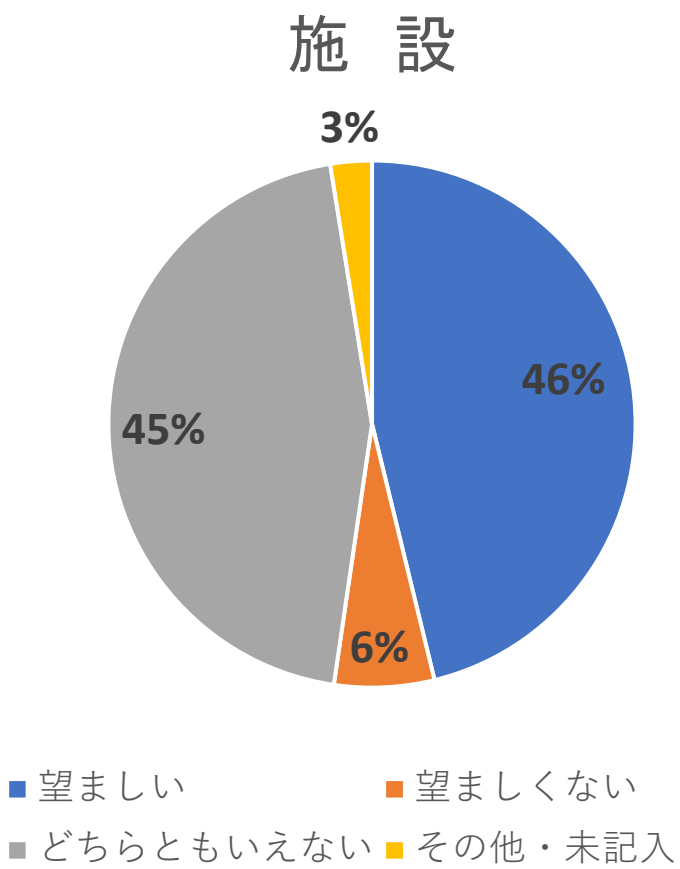
※回答にあたっての主な理由
養成校、施設共に、「学生の学び」、「学生の負担軽減」であった。

傾向が類似していた事項

				養成校	施　設
(1)	指導案を書く手段	手書き		５６％	５３％
		PC		５％	２％
		両方		３９％	４５％
(2)	日誌の分量	多い		１１％	１８％
		適当		７３％	８２％
		少ない		１６％	２％
(3)	評価票の開示	している		４３％	－
		望ましい		－	４７％
(4)	保Ⅰでの責任実習	必要		５０％	４４％
		不要		５０％	５６％
(5)	実習期間(10日間)	保Ⅰ	多い	０％	１％
			適当	９３％	９５％
			少ない	７％	４％
		保Ⅱ	多い	０％	１％
			適当	９３％	９１％
			少ない	７％	８％

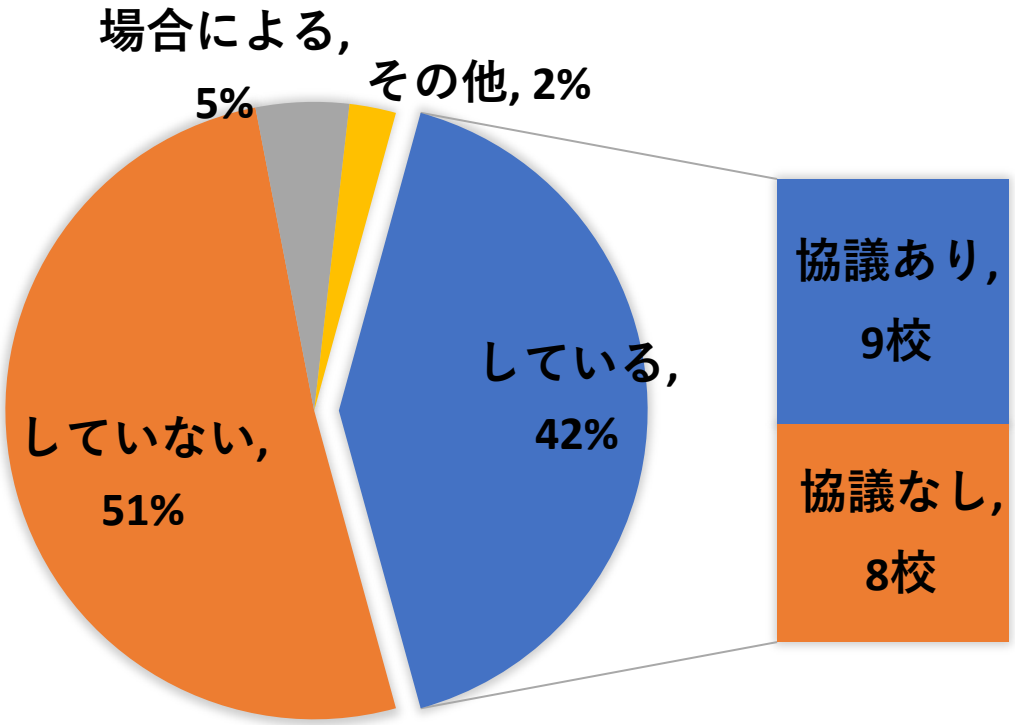
評価票の開示





※<u>施設</u>→開示による「学生の意欲低下」を懸念する記述が見られた。

※評価票の開示について協議しているか（養成校）



評価が開示されるかどうか、施設側が把握していない可能性がある。

施設側が開示有無を把握することが、評価の質に影響を与える可能性がある。

連携を要する事項

・実習の事前打ち合わせ方法
→（単独・合同）会議か、文書・訪問・電話か。

・実習時間内における指導案・日誌の記入
→時間内に記入時間の設定を協議するか。

・責任実習の回数
→回数（１～２回）の設定を協議するか。

・評価票の開示
→もし開示するならば、その旨を施設に事前に伝達するか、協議するか。

※開示の是非にも協議が必要か。

まとめ・今後の課題

・保育実習に関する連携（養成校間、養成校−施設間、施設間）に向け、まず養成校間において実習に関する各種事象への認識を確認することが必要か。
・養成校は施設の実情に配慮しながらも、特に連携を要する事項４点に関して、確認、協議することが必要か。

※施設からのご意見･ご要望から
　実習生を将来採用することを検討している施設が散見された。そもそもの実習の目的･位置づけの再確認が必要か。